

柿崎区地域協議会 農・工・商業者との意見交換会

産業振興部会

金子 正一

日時：平成 26 年 11 月 11 日 (火) 午後 6 時 30 分～8 時 00 分

会場：柿崎地区公民館 第 2 会議室

出席者：(講師) 岸田 健氏、森本富治氏、佐藤 一氏

(産業振興部会) 金子委員、白井(一)委員、白井(秀)委員、吉村委員、渡邊委員

(地域協議会委員) 佐藤会長、宮澤副会長、神岡副会長、小池委員、小山委員

(その他) 新部商工会事務局長、中村まちづくり振興会事務局長

(事務局等) 大橋産業 G 長、江村班長、小山班長、黒崎 G 長、田鹿

【金子部会長あいさつ】

- ・それぞれの分野で活躍している皆様から、取り組んでいるプロジェクト等を紹介していただき、勉強したいと考える。
- ・人口の減少、市街地中心化が進む中、どうすれば柿崎区が元気になるかを一つのテーマとして意見交換をしたい。

【取り組みや情報の紹介(概要)】

(農業 岸田さん)

- ・柿崎を食べる会設立の経緯→中山間地域の維持が発端
- ・柿崎名水農醸プロジェクトの取り組みについて
- ・中山間地農業振興会の取り組みについて→中山間地盛り上げ隊による市の補助金を活用した特産品の開発、庭先集荷サービス

(工業 森本さん)

- ・柿崎鉄工会について説明→9社で社員が約750名、売り上げは推定200億円位
- ・柿崎の鉄工業の業績が良い→本社機能がほとんど柿崎にあり、地域に定着し、従業員は転勤が無い。流通形態も整っている。

(商業 佐藤さん)

- ・自社の創立とこれまでの経緯について
- ・インターネットを活用した集客について
- ・柿崎商工会青年部の取り組み→経営革新支援の活用、川田地区のホタルマップ作り、棚田での米作りを通じた教育活動、地域美化活動、経営の勉強会、交流活動等。

【質疑応答】

(吉村委員→岸田さん)

- ・柿崎を元気にするために、今後仲間を増やそうと考えているか。
- ・県では二毛作を指導しているが、二毛作を行う考えはあるか。

(岸田さん)

- ・柿崎を食べる会の仲間は今後増える可能性もあるが、同じ目的を持つ人が集まるべきだと思うので、誰でも良いということは考えていない。
- ・二毛作は個人農家としては考えていない。

(小池委員→森本さん)

- ・かつて異業種交流ということをよく聞いたが、現在はそのような交流というものはないのか。

(森本さん)

- ・いろんなところで講演会や交流会があるが、出来るだけ参加し、いろいろな人と話をするようにしている。情報収集はそのようなところで行っている。自分が外を向いていれば、異業種交流は自然に出来てくると思う。

(小池委員→森本さん)

- ・行動エリアの広がりとし町村合併は関係あるか。

(森本さん)

- ・市町村合併はあまり関係がない。我々は、この地域では仕事が見つからないので、県内でなく全国を向いて仕事をしている。

(佐藤会長→岸田さん)

- ・中山間地では休耕地がたくさんあると思う。それらを活用し、田舎体験のように子どもたちが体験できる場をつくる考えはあるか。

(岸田さん)

- ・休耕地の復旧のために田舎体験等をする予定は無いが、実際に今田んぼをしているところで田舎体験はやっているし、今後も行っていくべきと考える。

(佐藤会長)

- ・中山間地域では空き家もある。そこを活用して体験ができるのであれば良いと考える。

(宮澤委員)

- ・先ほど中山間地で作った米に付加価値をつけるとの話があったが、付加価値とはどのようなものか。

(岸田さん)

- ・付加価値は、個人が感じるものだと思う。新橋ロータリークラブとの交流が10年続いているが、その付加価値は交流であると考えている。来て、現場を見て、情報交換をすることが、都会に住む人たちにとっての付加価値だと思う。
- ・中山間地の農業はボランティアではなく、儲けがなく、努力が報われなければやらないと思っている。中山間地どこでも景色が一緒というような中で、どのような付加価値をつけてもらうか悩むところである。

(宮澤委員)

- ・中山間地農業を守っていくのは大変なことである。中山間地盛り上げ隊などで地域の草刈りを行っているが、相当評判が良いのではないか。

(岸田さん)

- ・中山間地から高田のほうへ行った人は、(農業を)やりたくないから出て行った。呼び戻す方法は地域で考えていくべきだと思う。

(白井(一)委員→佐藤さん)

- ・住吉町商店街は空き店舗が多く、日曜日は人がいない。川西地区の方が賑わっているように感じているが、商工会を巻き込んで、ほかの地域に手を差し伸べることはできないか。

(佐藤さん)

- ・まだ経営の途中であり、答えることができない。しっかりと勉強したい。

(神岡委員)

- ・(モノが)売れて見返りがあれば元気が出ると思う。農業の人が一生懸命働いても、モノが売れなければ元気が出ない。あそこのお店に行ってみたいなというようなものがあれば、人はどこからでも来るのだと思う。柿崎は売るのがたくさんあるが、特産品が無い。
- ・知人が農協で市をしていたが、高齢化等で無くなるということで、岸田さんがやっている庭先集荷を一緒にさせてもらうことになった。来年、下牧にベースキャンプができるが、米山に登る人が相当いるという話なので、下山したら地元のものが食べられる、野菜を買って帰れる等、6次的な取り組みができないものかと考えている。ぜひ若い方にそういうことをして欲しい。

(渡邊委員)

- ・柿崎の人口が減っている中で、柿崎に住みたくなる、仲間を増やすというようなことをインターネット等で都会の人を呼びこむようなことができないか。柿崎は食べるものがある、住むところもある。しかし金を生み出す、収入を得る場所がないことがネックだと思う。人が住みたくなるような街にするための方策は無いものか。

(佐藤会長)

- ・商工会や観光協会やどれだけ力を入れるかということだと思う。

(森本さん)

- ・新入社員が毎年3~5人入ってくるが、柿崎の出身者は少ない。また、他市等から入社した社員は、柿崎ではなく上越や柏崎にアパートを借りて住んでいる。柿崎には魅力がないのかなと感じる。

【「柿崎が元気になるためには」をテーマに意見交換】

(金子委員)

- ・今ゆるキャラが地域活動支援事業で採択され、作製されたが、どれくらいの出演回数があったものか。賑わせるひとつの手法かと思うが。

(商工会)

- ・8月の時代夏祭りにお披露目をさせてもらったが、それ以降、イベントには5回位使用している。各集落の祭りや営業的なものでも利用があり、年前には10回位の利用が見込まれる。

(金子委員)

- ・柿崎のメインイベントのひとつに、米山山麓ロードレースがある。今年は1,086人がエントリーし、ランナーの家族を含め多くの人が柿崎に来ているが、そのような人たちがもう一度来たくなるような街にならないかと考える。それにいろんなことを集中してできないか。何か売り込むようなアイデアはないものか。

(佐藤会長→佐藤さん)

- ・柿崎全体の商業の集客を考え、今後、特に力を入れたいものはあるか。

(佐藤さん)

- ・嫁が名古屋の出身だが、名古屋に行くと、例えば「味噌カツ」のように、ほとんど自分たちの食べているものを自慢する。しかし、柿崎はそれがほとんどない。まずは、住んでいる人を変えていかなければ、元気にはならないと思う。一部の人間がイベントを盛

り上げようとしても盛り上がらない。最近気付いたのは、人を変えるには自分が変わらなくてはいけないということ。何年後には、自分が頑張っていることが人に伝われば良いと思っている。

(白井(秀)委員)

・祭りでもイベントでも、住民が喜んで参加するものが無い。例えば、納涼花火大会は人が集まるが、自分たちが何かするとなると人が集まらない。先に田舎体験という話があったが、上下浜の坂木さんは親身になり地引網などをしてくれているが、それで終わってしまう。

(佐藤会長)

・田舎体験は時期的なものもある。魚が獲れる時期も獲れない時期もある。獲れない時期に田舎体験をやっているときもある。そのあたりも考えて時期を決めた方が良いと思う。

(白井(秀)委員)

・坂木さんらは自主的にやってくれている。何か起爆剤は無いものか。

(宮澤委員)

・継続しかないと。また、どういうPRをするかにもよる。

(白井(一)委員)

・魚の獲れる時期と言えば、鮭があるが、ほとんどの鮭が捨てられているようである。そのようなものを利用して、民宿等でサービスできないか。

(神岡委員)

・加工が大変である。

(渡邊委員)

・3人からお話を聞いたが、何かを共同で行うというようなことは考えていないのか。柿崎の欠点は、横のつながりが無く、他の団体に関心を示さないことではないか。ロードレースのときに魚祭りをやるというような。

(森本さん)

・良い案だと思う。いろいろなイベントがたくさんあると分散してしまう。

(中村事務局長)

・地域を活性化させることは難しいと感じている。その中でも、若い人たちとのつながりをどのようにしたらいいかということが課題だと感じている。わすけさんはHPやチラシ

シ等も力を入れていると思うが、ネットを見て来た人たちの客層は。

(佐藤さん)

- ・ ネットを見て来られる方は、若い方が中心である。

(金子委員)

- ・ 三星工業さんは、京セラや東芝と取引があり、海外での特許が2件あるとのことだが、どのような取引があるのか。

(森本さん)

- ・ 東京で展示会を行った際、京セラ、東芝の方がブースにきたことがきっかけで取引があった。
- ・ 特許は、ほとんどの日本メーカーが海外で作業をしている。海外にその機械が出るため防衛のために特許の申請をしている。

(金子委員)

- ・ さまざまなことをお聞きしたが、今後の部会の活動に役立てていきたいと考えている。

(20:00 終了)

【まとめ】

- ・ 農業分野では、中山間地の活性化のために、様々な取り組みを行っているが、厳しい農業政策の現状もあり、農業経営者だけではなく地域も一体になって取り組んでいくことが不可欠であると認識した。
- ・ 工業分野では、柿崎鉄工会9社で従業員が約750名、売上推定200億円と頑張っており、9社間での競争がないこと、そして各社の業績が良いことで、お互いが刺激を受けながら経営をしている。さらに発展するために県内だけでなく全国に目を向けて事業を展開しているとの元気の出る情報をいただいた。
- ・ 商業の分野では、人口の減少が進む中で地域の特色を前面に出した経営が求められているし、また来なくなるような街や地域づくりが重要との見解だった。
- ・ 「これからの柿崎を元気にするには」の意見交換会では、一部の人たちで活動しても全体の盛り上がりには結びつかないため、関係機関や各団体が連携し、地域住民も含めみんなが意識を変え、一緒になって柿崎を盛り上げるという気運が重要だと再確認した。
- ・ 経営者の方々から率直な意見や提案があり、意義のある会だったと思う。

様式1

提案番号	
------	--

「自主的に審議する事項」提案書

地域協議会委員氏名	教育・福祉部会 (部会長 長井 洋一)	
審 議 提 案 事 項	件 名	柿崎区保育園にかかる課題と今後について
	内 容	<p>柿崎区には、柿崎第一保育園、第二保育園、上下浜保育園、下黒川保育園の4つの保育園があるが、それぞれ老朽化が進んでいることに加え、未満児の受け入れの有無や延長保育の時間帯が異なる等、サービスに差が生じている状況である。このことから、教育・福祉部会では柿崎区及び区外の保育園を視察し、現状や課題について以下のとおり検証を行った。</p> <p>① 保育園の老朽化</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下浜保育園は建築後40年を経過、他の3園についても30年を経過し、老朽化が進んでおり、修繕費がかさんできている。 <p>② 施設面での課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・上下浜保育園では、0歳児の受け入れが施設的な問題で出来ない。 ・柿崎第一保育園では、未満児の保育室が2階に設置しており、移動に支障がある。 ・柿崎第二保育園では、回廊となっているが、未満児の関係で回廊として使用できない。 ・衛生面では、給食調理員専用のトイレがない。また、床がフローリングの園もあり、感染症対策など衛生面で課題がある。 ・職員室から全体の様子を見ることができないため、安全面などで課題がある。 ・近年新設された保育園と比較すると、柿崎区の園では採光が少ない、ステージがない保育園がある等、保育環境が大きく劣っている。 <p>③ サービス面での課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・7時型の延長保育は、柿崎第一保育園と柿崎第二保育園のみで、他の2園の利用者が、年度の途中で7時型を希望する場合は、

(裏面に続く)

		<p>転園する必要がある。また、上下浜保育園では0歳児の受け入れがないなどサービスに差がある。</p> <p>(参考)</p> <p>7時型 延長保育 平日 7:30～19:00 土曜日 7:30～17:00</p> <p>6時型 " 平日 7:30～18:00 土曜日 7:30～12:00</p> <p>④ 防災面での課題</p> <p>・国や県の津波想定から、津波に対する安全性を確保する必要がある。</p> <p>⑤ 将来的な課題</p> <p>・柿崎区内は、4園あるが、少子化の影響から、特に下黒川保育園及び上下浜保育園では、利用者の減少が見込まれる。</p> <p>以上を踏まえ、柿崎区の保育園は今後どうあるべきかということについて、柿崎区地域協議会における自主的に審議する事項として、協議・検討することを要望する。</p> <p><input checked="" type="checkbox"/> 地域における懸案事項への対応に関すること</p> <p><input type="checkbox"/> 地域の振興に関する課題への対応に関すること</p> <p><input type="checkbox"/> 新市建設計画の計画的かつ円滑な推進に関すること</p> <p><input type="checkbox"/> その他()</p>
提案年月日	平成 年 月 日	

平成26年11月26日

地域協議会委員 各位

上越市長 村山 秀幸
(柿崎区総合事務所)

地域活動フォーラムの開催について

時下ますます御清祥のこととお喜び申し上げます。また日頃から地域協議会の運営に格別の御尽力を賜り、厚くお礼申し上げます。

さて、地域活動支援事業を活用し、各地域で取り組まれた自主的・自発的な活動を紹介するとともに、地域コミュニティの活性化として先進的な取組を実践されている講師を招き、身近なまちづくり、地域活動の活性化について考えるフォーラムを下記のとおり開催します。

つきましては、地域協議会委員研修の一環としますので、御出席くださるようお願い申し上げます。

記

- 1 日 時 平成26年12月14日(日) 午後1時30分～午後4時
- 2 会 場 リージョンプラザ上越 コンサートホール
- 3 内 容 第1部：基調講演
講師：NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和 氏
演題：地域が支えあう学びのまちづくり・ひとづくり
～これからのまちづくりに向けた勝負どころ～
第2部：事例発表
内容：地域活動支援事業の採択事業実施団体による発表(4団体)
- 4 出欠報告 研修会の出欠につきまして、お手数ですが12月5日(金)までに下記担当へ御連絡くださるようお願いいたします。
なお、今回のフォーラムは委員研修の一環とし、費用弁償(1,200円)の対象としますので申し添えます。

担 当

柿崎区総合事務所

総務・地域振興グループ (福澤・田鹿)

電話：025-536-6710 Fax：025-536-2227

地域活動フォーラム

～身近な地域からはじめるはじまる
すこやかなまちづくり～

市では身近な地域自治を推進するため、地域活動支援事業を実施しています。

この事業を活用し、各地域で取り組まれた自主的・自発的な活動を紹介するとともに、地域コミュニティの活性化として先進的な取組を実践されている講師を招き、身近なまちづくり、地域活動の活性化についてみんなで考えるフォーラムを開催します。奮ってご参加ください。

日時 ▶ 平成26年 **12月14日(日)** 13:30～16:00

会場 ▶ リージョンプラザ上越 コンサートホール (上越市下門前446-2)

13:30 (開会)

13:40～ 基調講演 「地域が支えあう学びのまちづくり・ひとづくり

～これからのまちづくりに向けた勝負どころ～

NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長 高橋 由和 氏

14:50～ 事例発表 「地域活動支援事業の活用事例の発表」

ENJOY35 (さんごう) (三郷区) 高土地区婦人会 (高土区)

泉町内会 (牧区) 名立駅マイ・ステーション作戦実行委員会 (名立区)

参加無料

講師：高橋 由和 氏

NPO法人きらりよしじまネットワーク 事務局長

★プロフィール

1960年山形県飯豊町生まれ。

1989年から同町の体育指導員として地区公民館事業に携わり、2002年に吉島地区社会教育振興会事務局長に就任。様々な地域活動等に関わる中で2007年に特定非営利活動法人きらりよしじまネットワークを設立、事務局長に就任。

今までの地域づくりのシステムを根本から見直し、住民ワークショップを取り入れた地域の合意形成を推進し、地域を運営する全世帯加入のNPO法人として持続可能な新しいまちづくりに挑んでいる。



参加ご希望の方は、会場準備の都合上、できるだけ事前に電話、FAX、E-mail等でお申込みください。



上越市

申込み・お問い合わせ 上越市 自治・地域振興課

〒943-8601 上越市木田1丁目1番3号

電話 (025) 526-5111 (内線1429) FAX (025) 526-6114

E-mail jichi-chiiki@city.joetsu.lg.jp ホームページ <http://www.city.joetsu.niigata.jp>